

福井県産ナナフシ類 (Phasmatidae) 分布ノート

下野谷 豊一*

Distributional notes on the Stick Insects from Fukui Prefecture, Central Japan

Toyokazu SHIMONOYA*

(要旨) 福井県からはこれまでに7種のナナフシ類の記録がある。しかし、これらの記録には、分類上の混乱がみられるので、それらを整理し、さらに福井県より記録のないトビナナフシ1種を記録する。

キーワード：ナナフシ目、シラキトビナナフシ

1 はじめに

福井県昆虫目録 第1版にはエダナナフシが2種、トビナナフシが2種、トゲナナフシが1種の合わせて5種の記録がある。次の第2版には(1)ナナフシモドキ、(2)トゲナナフシ、(3)トゲナナフシモドキ、(4)ナナフシ、(5)エダナナフシ、(6)トビナナフシ、(7)ヤスマツトビナナフシの、何と7種が記録されている。これは標本を直接調べて同定したのであれば、起こりえないことで、十分に吟味せずにリストを作成したのではなかろうか。

この第2版のリストを整理すると、(4)のナナフシは(1)のナナフシモドキと同一種、(3)のトゲナナフシモドキは(2)のトゲナナフシと同一種。従って第2版に記録されているナナフシは、7種でなく次の5種とすべきである。

Phasmatidae ナナフシ科

- (1) *Baculum irregulariterdentatum* Brunner von Wattenwyl
ナナフシモドキ
- (2) *Phraortes illepidus* Brunner von Wattenwyl
エダナナフシ
- (3) *Micadina yasumatsui* Shiraki
ヤスマツトビナナフシ
- (4) *Micadina phluctaenoides* Rehn
ニホントビナナフシ (トビナナフシ)
- (5) *Neohirasea japonica* De Haan
トゲナナフシ

従って、福井県に分布するナナフシ科は、上記の福井県昆虫目録を整理したリストの5種に今回以下に記録するシラキトビナナフシを加え6種となる。

2 3種のトビナナフシが混棲

次に、本州からは7種のナナフシ類が確認されているので、福井県からも新たな種が見つかる可能性があるのではと、少し古い記録になるが、2000年9月に今立郡池田町水海でトビナナフシ類だけを目的に5回の調査を行なった。

採集地点は水海より美濃俣への林道沿いで、林道の両脇には二次林ではあるが、樹高10mほどのブナ、ミズナラ林が続いていた。採集には6mの長竿を使用し、葉にネットを被せるように掬った。初めは継続して調査するつもりはなく、一日目の9月5日、そう簡単には採れないだろうと思いながら、林道の両脇のブナ、ミズナラを掬って行くと、退屈しない程度にネットの中に姿を見せてくれた。この日は21頭を採集し、生かしたまま家に持ち帰り調べてみると、その結果は福井県から記録のないシラキトビナナフシを含む、3種のトビナナフシを確認。初めは1~2回の調査を予定していたのが、思わぬ成果に背を押されて5回も出かけてしまった。これまでは3種が混棲することはありえないと考えられていたので、驚きであった。

本州に分布する3種は、シラキトビナナフシが最も標高が高いブナ、ミズナラ林に棲息し、それより低いところにヤスマツトビナナフシ、さらにコナラ~常緑照葉樹林にニホントビナナフシが棲息することが知られている。福井県内でも海岸に近い低標高のところにはニホントビナナフシが、それより標高が高くなるとヤスマツトビナナフシとニホントビナナフシが混棲する。3種が混棲する要因については今後の課題であるが、いま考えられる一つに、ニホントビナナフシがシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの生息域に分布を拡大したことも考えられる。これは1990年頃か

*〒910-0004 福井市宝永3-31-12

*3-31-12 Houei, Fukui City, Fukui 910-0004, Japan

ら始まった温暖化の影響もその要因かも知れない。福井県内のほかの地域での棲息状況も知りたいところである。

調査結果を次に記録する。採集品はすべて♀。

(1) *Micadina yasumatsui* Shiraki

ヤスマツトビナナフシ

9月5日 5 exs. 7日 3 exs. 12日 2 exs.

19日 3 exs. 20日 3 exs.

合計 16 exs.

(2) *Micadina phluetaenoides* Rehn

ニホントビナナフシ

9月5日 14 exs. 7日 6 exs. 12日 3 exs.

19日 3 exs. 20日 4 exs.

合計 30 exs.

(3) *Micadina fagi* (Ichikawa and Okada)

シラキトビナナフシ (福井県未記録)

9月5日 5 exs. 7日 1 exs. 19日 2 exs. (図1)

合計 8 exs.

採集された個体数を比較してみると、最も低地性のニホントビナナフシが最も多く、予想しない結果であった。

参考文献

岡田 正, 1999, ナナフシのすべて, トンボ出版, 55p.

酒井哲弥・佐々治寛之, 1998, 福井県昆虫目録(第2版), 福井県県民生活部, P58.

安松京三・朝比奈正二郎・石原 保 監修, 1965, 原色昆虫大図鑑, 第3巻, 北隆館, 358p.

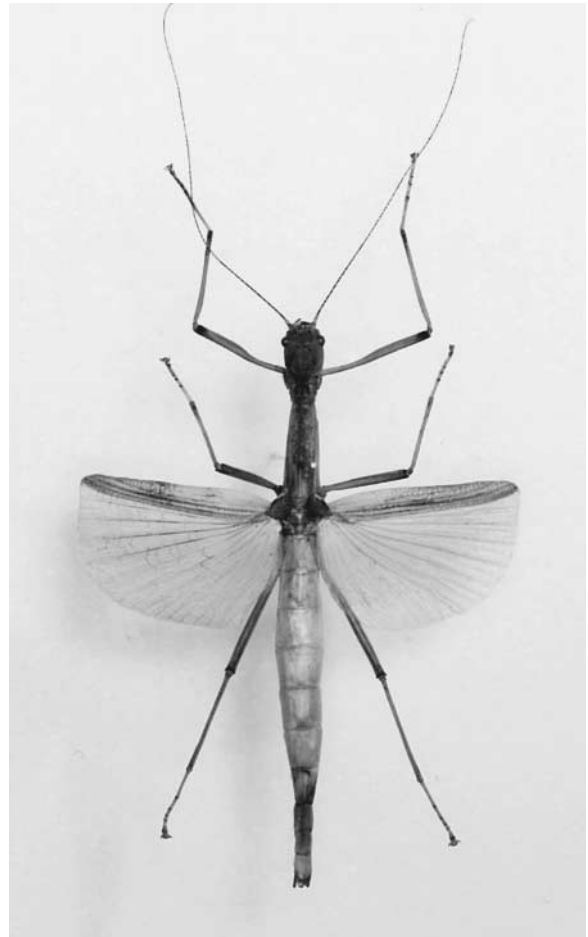


図1：シラキトビナナフシ